

新たな社会に対応した教育課程の編成と職員の協働による評価・改善の体制づくり

～教育課程検討委員会の運営と情報共有ツールの活用を通して～

燕市立吉田小学校

松田 健太（平成15年度）

令和2年度以降、学校現場では、流行拡大を続ける感染症やGIGAスクール構想、働き方改革等、様々な変化への対応が求められてきた。しかし、これまで勤務校で行ってきた年間や学期間といった「中・長期で教育活動を評価、改善する取組」だけでは、日々の変化する学校課題に対応できないという実態があった。そこで、すべての教職員がそれぞれの立場から教育活動を見直すとともに、学校課題の解決に参画する仕組みを校内組織に取り入れることで、より実態に即した評価、改善が行われるのではないかと考えた。本実践では、校内組織である「教育課程検討委員会」を充実と、情報共有ツール「google for education」の活用を行うことを通して、即時かつ実態に合った教育活動の評価、改善を目指した。